

受付番号	46		
許可番号	大歯医倫 第 111141 号		
研究課題名	医療保健学部生の英語力の現状と英語に関する意識調査		
研究責任者	和唐 雅博	申請者	和唐 雅博
研究終了日	2026 年 3 月 31 日		
所 属	医療保健学部 口腔保健学科	所 属	医療保健学部 口腔保健学科
職 名	教授	職 名	教授
申請の概要			

近年の国際化により、歯科衛生士および歯科技工士の活躍の場は日本に留まらず、2018 年度に「歯科衛生学教育コア・カリキュラム」の改定で、「国際歯科保健」が追加されたことから、歯科衛生士が国際的活躍を期待されていることがうかがえる。歯科技工士においては、日本の歯科技工士教育制度が国際的に高いレベルと認められ、欧米での歯科技工士としての活躍のみならず、発展途上国においては指導者としてのニーズも高い現状にあると考える。また、2020 年 1 月から社会に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルスの問題など、予測困難に起こる社会の問題に向き合い、解決していくためには、グローバルな視点を持ち、各国でオンタイムに発信されるトピックスや各種学会から発表される知見に自らアクセスし情報を収集していくことが必要となる。これらのために、海外で即戦力となる英語でのコミュニケーション能力や英語論文を読解する英語力を身につけることが求められると推測する。しかし、それらを十分身につけている歯科衛生士および歯科技工士は多くない現状にあり、養成校での歯科医学英語教育の重要性は明らかである。 本学学生にお

いても、歯科衛生士および歯科技工士にとって英語を身につける必要性をあまり感じていない、または、必要性を感じていても身につけることに意欲的でないのではないかと推測する。

本研究は医療保健学部生を対象に英語に関する意識調査および英語力試験を行うことにより、英語力を身につけることを困難にしている要因や問題点、英語力の現状を把握し、関係を調べる。そこから歯科医学英語教育における学生のニーズを明らかにすることが目的である。

本研究により学生のニーズを明らかにできれば、効果的な学修支援が出来るようになり、学生の英語力を身につけることに対する意欲向上と学修効果が期待される。また、英語力を身につけることに意欲的で、能力が高い学生の育成により、国際化が進む医療の現場に貢献できる歯科技工士および歯科衛生士を送り出す可能性も期待できる。